

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	一人ひとりの確かな学びを支えるための教育課程を編成し、教育目標の実現に向け、各教科等の指導を関連付けながら魅力ある授業を展開する。	①児童・生徒の実態や地域の特性を生かした教育課程を編成し、一人ひとりの指導の充実を図る。 ②教員一人ひとりが専門性にに基づき、自立活動や教科等の指導を適切に行う。	①-1 年間指導計画を作成し、目標や内容、方法(指導形態)などを明確に取り組む。 ①-2 新型コロナウイルス感染症予防のため、家庭と学校との連携をより深めながら、学習内容を精選し、効果的に指導できるよう取り組む。 ①-3 校内研究と連動させながら、全校で特色ある教育課程づくりに取り組む体制を構築する。 ②-1 学校教育目標や教員のニーズを踏まえて研修内容を精選し、必要な時期に必要な研修が行えるよう計画する。 ②-2 各学部、学年等で計画的に授業の振り返りを行い、PDCAサイクルに基づいた授業実践を定着させる。	①研究と連動させながら、全教員で教育内容等を工夫しながら実践に取り組むことができたか。 ②研修や授業実践の振り返りなどを計画的に行うことができたか。	①-1 年間指導計画で目標や内容等を明確にし、単元ごとの振り返り等を通して、指導内容の改善や指導形態の工夫を図った。 ①-2 家庭と電話連絡等を行い授業のビデオ配信やオンライン授業等、児童・生徒の実態に応じた学習保障を検討し、取り組むとともに、授業内容の代替案を作成する等して教育活動の充実に努めた。 ①-3 月1回の研究日を中心に知肢合同での地域貢献活動について関わる教員間で積極的に話し合い、授業実践に取り組んだ。 ②-1 夏季休業中に「職員研修期間」を設定。各グループから必要な研修を聞き取り計画に反映し、実施した。 ②-2 授業の振り返りは、学年を中心として実施し、授業改善に生かす取組も見られたが、全校的な定着までには至らなかった。	①-1 年間指導計画の作成方法について周知するとともに、教科横断的な見直しに着手する。 ①-2 今後も適宜家庭と連携を図り教育活動の充実を図る。 ①-3 今後も研究と連動させながら地域貢献活動を進める。 ②-1 学校として必要な研修を体系化し、優先度をつけ計画的に取り組むとともに、経験に応じた研修の在り方を工夫する。 ②-2 授業の振り返り日を確認、記録を回覧する等全校的に授業改善を図る取組を推進する。	①新型コロナウイルス感染症対策を教職員、保護者と共有し、様々な教育活動を実施したことは高く評価できる。一方でその内容が十分に保護者に伝わっていない。情報発進の仕方を工夫していく必要がある。 ②児童・生徒への丁寧で穏やかな指導・支援がよい。授業実践の結果、児童・生徒がどのように変わったかをしっかりと評価し、今後も指導の充実を図ってほしい。	①年間指導計画を作成し、教育課程に基づく指導を行った。校内研究を中心に地域貢献活動に着手することができた。教育活動の取組を保護者と共有する工夫や今後さらに知肢併置での特色を活かした授業の工夫を図る必要がある。 ②校内研修や各クラスを中心とした授業の振り返りを実施し、自立活動や教科等の指導の充実を図った。経験年数や障害種に応じた計画的な研修の実施や授業改善の仕組みの工夫が必要である。	①年間指導計画の作成・評価を行い、各教科等の系統的な指導につなげる。知肢併置での授業実践のよさを共有し授業に活用する。教育課程やそれを踏まえた教育実践の取組についてHPや学校便りなどを利用し情報発進していく。 ②研究授業等を活用し各学部の授業実践の質を高める。授業振り返り日や記録の方法等について各学部で工夫を図る。学校目標等を踏まえ研修内容を検討し、計画的に取り組む。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	個別教育計画作成・運用システムを構築し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。	①一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導のため、個別教育計画の作成等についての共通理解を図り、実態把握に基づき重点課題を適切に設定する。 ②日々の教育活動を通して、実態把握を深めるとともに、個別教育計画に基づく話し合いをもち、教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。	①教育課程を踏まえた個別教育計画の書式を作成し、作成方法等について全教員に周知し、実践事例を通して必要な改善を図る。 ②-1 個別教育計画の検討日(ケーススタディー)を設定し、目標に対し、複数の様々な立場の教員で検討・修正・評価し、指導の充実につなげる。 ②-2 実態把握の方法について、専門職等を活用し深める。	①個別教育計画に基づき、教員間や保護者と重点課題や指導内容を共有しながら取り組むことができたか。 ②学級を中心に個別教育計画についての検討(振り返り日)を計画的に行うことができたか。	①学部教育目標と関連付けた個別教育計画の書式を作成し、作成・評価方法についてもQ&Aを作成し、教員間の共通理解を図った。個別面談等を活用し保護者と共通理解を図りながら指導を進めた。 ②-1 月1回、個別教育計画検討会を設定し、学級を中心に指導目標の修正や見直しを行うことができた。個別教育計画検討日において見直しが必要になったケースでは、保護者と情報共有し目標・指導内容の見直しを図った。 ②-2 専門職も交えて実態把握を深め、個別教育計画の作成・評価に生かした学級もあった。	①年度初めには研修を行い、作成方法について共通理解を図る。見本となる事例等を収集し、参考とする。 ②-1 検討方法や内容が学級により差異があり、学校全体で内容を深める工夫を図る。 ②-2 専門職の活用その他、共通のアクセスメントツールの活用等を検討し、実態把握を深めるための手立てを講じる。	①個別教育計画の活用については、保護者アンケートの結果も高く共有が図られていることを感じる。さらに指導の充実につながるよう取り組んでほしい。 ②検討日の取組など有効な仕組みを今後も継続し、質を高めてほしい。	①個別教育計画の作成の手引きを作成し、教員間での共通理解を図るとともに、面談等とおして本人・保護者と共通理解を図りながら進めることができた。実態の捉え方や重点目標の設定方法等の共通理解がさらに必要である。 ②個別教育計画検討日を設定し見直しを図ることができた。その意義を共有し、学校全体で有効に活用する。	①実態の捉え方や重点目標の設定、評価の記載方法等、適宜研修を行う。 ②個別教育計画検討日にクラス外の教員が参加できる仕組みを構築し、実態把握や評価等を深める。
3 進路指導・支援	地域の関係機関との連携を築き、児童生徒が地域で豊かに暮らし働くことにつながる指導・支援を展開する。	①児童・生徒の自立と社会参加に向けて、キャリア教育を推進し、作業学習や校内実習等の充実を図る。 ②地域関係機関と連携し、職場開拓等を進める。	①-1 校内支援体制を構築し、本人、保護者と移行支援に関わる個人面談や相談、校内実習等を実施し、生徒のニーズや適正等を把握する。 ①-2 将来の生活を見据え、中学部・高等部と連携し、本校の作業学習の在り方を検討・実施する。 ①-3 卒業後の生活に向けた意識の啓発と情報提供を行う。 ②地域関係機関を有効に活用し職場開拓を進めるとともに、卒業後の生活を見据え相談支援センター等との連携を図る。	①面接や作業学習、校内実習等を通し、本人の自己理解や卒業後の生活に対する意識を育むことができたか。 ②地域関係機関との連携や職場開拓を進めることができたか。	①-1 事前アンケートの活用等も図りながら進路面談を年2回、校内実習を年1回実施し、生徒のニーズや適正把握に努めるとともに、結果を本人・保護者に伝え、意識の醸成に努めた。 ①-2 中学部・高等部の作業担当者同士基本的な考え方や内容等話し合いをもち、取り組んだ。 ①-3 進路学習会年間2回、小中進路説明会年1回、参加。高等部進路説明会年2回実施。教員向けの研修は全体研修と希望者研修を行い啓発に努めた。	①-1 面談の組み方を工夫し時間の確保を図る。 ①-2 系統性を持たせていくとともに、特別教室の利用や道具の共用について検討する。 ①-3 肢体不自由教育部門の保護者も参加しやすい内容を設定する。 ②今後も職場開拓を行うとともに、都度必要な機関との連携を継続していく。	①作業学習や校内実習等の取組に着手し、生徒の学びにつなげたことは高く評価できる。生徒の取組、そこでの変容等を保護者へ丁寧に発信してほしい。 ②今後も小学部から将来について考え検討できるように保護者学習会等の充実を図ってほしい。	①作業学習や校内実習に着手することができた。新規作業学習の立ち上げや中学部、高等部と学部のつながり等を踏まえ教育活動を進めていく必要がある。 ②地域関係機関と連携し職場開拓に着手することができた。肢体不自由のある生徒の進路等の開拓等さらに進めていくことが必要である。	①作業担当者間で話し合う機会を作り、作業間や学部間のつながりをもち、計画的に指導できるようにする。生徒の取組や変容等を面談や学部懇談会等を利用し保護者へ情報提供する。 ②今後も相談支援センター等との連携を図り、進路開拓を進めていく。学習会の

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
					きたか。	②各区の自立支援協議会に参加しネットワークの構築に努めた。高等部では特例子会社と連携しオンライン授業を実施した。				内容や開催方法等を工夫し小学部の保護者等の参加を促す。
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域が積極的に学校運営に参画し、学校で、地域で「ともに学び、ともに喜ぶ」教育活動を創造・展開する。	①学校運営協議会を発足し、地域の方が学校づくりに参画する仕組みの一助とする。 ②地域ニーズを把握するとともに、地域貢献する教育活動を模索する。	①学校運営協議会の意義や目的を明確にし、関係者で共有するとともに、学校運営に基づく計画的な会議を開催し、取組みの成果や課題を分かりやすく情報発信し、有効な意見交換ができるようにする。 ②-1 地域関係機関や教員間での連携を図り、居住地交流や学校間交流等の交流及び共同学習の仕組みづくりに取り組む。 ②-2 地域のニーズを把握し必要な相談や情報発信に積極的に取り組む。 ②-3 外部人材の活用を図り、通学支援や学習活動の充実を図る。 ②-4 施設開放の在り方を検討し、地域の方が有効に活用できるようにする。 ②-5 地域貢献についての研究ユニットを立ち上げ、学部の授業との連携を図りながら実践する。	①学校運営協議会を開催し、地域と協働して学校運営を行うことができたか。 ②児童・生徒の実態や地域のニーズを把握し、地域貢献する教育活動について教員全員で創造し、取り組むことができたか。	①第1回学校運営協議会で意義や目的を明確にし、年4回の会議で授業見学等を通し学校の取組みについて関係者で共有を図った。 ②-1 居住地交流や学校間交流の取組みを始めた。 ②-2 チラシの作成や学校への挨拶回りを行い、学校訪問相談を計回実施した。 ②-3 音楽や図工等外部人材の活用を図り、教育活動の充実を図った。通学支援員、見守りボランティアを配置し、活用した。ボランティア募集を行い登録数45名。草取り等も行っていただいた。 ②-4 施設開放の手続き等を整え、開放を試行した。 ②-5 学部を中心に地域貢献活動の実践を行い、1月には研究報告会を実施した。	①事前資料配付等、計画的に会議を運営し、意見が学校運営に反映できるようにする。 ②-1 手続き等について周知し、継続していく。 ②-2 情報発進とニーズを的確に把握し地域の校内支援につなげる。 ②-3 外部講師の活用を積極的に図る。 ②-4 スポーツ課の事業と併せ、仕組みを構築し実施につなげるとともに、校内で共通理解を図り進める。 ②-5 地域のニーズを探り、教育活動の在り方を深める。	①学校運営協議会を設置し、活発に意見交換が行えた。会議内容の精選を図り、学校運営にさらに熟議した内容を反映させていけるとよい。 ②学校間交流や交流及び共同学習、地域への訪問相談など積極的に活動したことは大きく評価できる。 ③低学年から地域に出でいくことには意義があり、教員間で共通理解を図りながら、地域の中での活動を進めたことを今後も継続し、豊かな教育活動につなげていってほしい。	①学校運営協議会を設置し、校内の取組について共通理解を図るとともに課題について協議することができた。協議内容を学校運営に反映し、地域の方が学校づくりに参画する仕組みの構築が必要である。 ②教育相談C oを中心に学校訪問を行い、地域の学校の支援に取り組んだ。今後も学校全体で取り組んでいくことが必要である。 各クラスを中心に地域貢献活動に着手した。あおばフェスタ、スポーツフェスタ等地域とともに活動する仕組みを構築する。	①部会の在り方を再検討し、有機的に活用していく。 地域学校協働本部を立ち上げる。 学校運営協議会や各部会、地域学校協働本部それぞれの目的や位置づけを明確にし、関係者が共通理解を図りながら学校づくりを進める。 ②地域の学校を支援することの意義を校内で共有し、教育相談C oだけでなく、学校全体で地域の特別支援教育を推進していく仕組みを検討する。
5	学校管理 学校運営	児童生徒、保護者、教職員、地域と誰もが安全・安心で、使いやすく整った教育環境の充実を図る。	①児童・生徒が安全で安心できる教育環境を構築する。 ②ライフワークバランスを踏まえた職場環境づくりに取り組む。 ③感染症予防の推進を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制を構築する。	①学校運営に関わるルールや体制について学校運営要項やマニュアル等を作成し、教職員や関係者と共通理解を図るとともに、実施に基づき適宜必要な見直しを行う。 ②-1 働きやすい職場環境を整備する。 ②-2 時間外勤務を各自が把握でき、自己調整できる機会を提供する。 ②-3 退勤時間を明確にし、計画的に進められるようにする。 ③-1 新型コロナウイルス感染症予防の推進のために衛生的な環境の確保、シミュレーションの実施、必要な情報発信等を行う。 ③-2 医療的ケアの支援体制を構築し、的確で安全な実施を行う。 ③-3 個に応じた安全で美味しい給食の提供を行う。 ③-4 形態食の提供による個に応じた摂食指導の推進及びアレルギー事故防止を徹底する。	①学校運営要項や必要なマニュアルが作成されたか。 ②働きやすい職場環境の工夫が図られたか。 ③感染予防を含め、安心・安全な体制が構築されているか。	①学校運営に関わるルールや体制について学校運営要項やマニュアル等、各分掌を中心に作成し、実施に基づき適宜必要な見直しを行った。 ②-1 ペーパーレス化や帰る前にはO使用に戻す等、各教員が意識し取り組んだ。 ②-2 年度途中から出退勤を自己で入力するシステムが導入され、自己管理の一助とした。 ②-3 毎日の退勤時間を掲示し、水曜日はノー残業デーとした。 ③-1 掃除や消毒の方法等を整理、周知するとともに、換気の徹底や感染症予防のための手洗いやマスクの着用、日々の健康観察を徹底した。 ③-2 医療的ケアの手引きを作成し、教員、保護者、看護師と連携して安全に医療的ケアを実施した。 ③-3 4段階の形態食を提供、アレルギー食の対応、持ち込み食等による偏食への対応など個に応じた給食の対応を行った。また、感染症予防の観点から、配食の仕方、給食指導の方法の見直しを行った。 ③-4 アレルギー食の提供時は、トレイや名札の色を変える、担任を含めた複数での確認など、事故防止に努めた。	①全体を管理する分掌を明らかにし、周知や見直し、改善を効率的に進める。 ②-1 重点目標を明確にし、優先度をつけて業務にあたる。 ②-2 会議を精選し、話し合いや個人作業の時間を確保する。 ②-3 ルールについて周知し意識の醸成を図る。 ③-1 感染症予防に関する通知や情報の収集に努め、有効かつ無理のない対応を検討していく必要がある。今後も継続して衛生管理や情報発信を行う。 ③-2 マニュアルの見直しを行い、より安全な実施を目指す。人工呼吸器を使用する児童・生徒の対応体制を構築する。 ③-3 継続していくとともに、感染症の地域的な感染状況を確認しながら、配膳方法などの対応を検討していく。 ③-4 今後も継続し事故防止に努める。	①学校運営要項や各種マニュアルは整備するとともに、それを実際に活用し安全な学校運営や、効率的な業務の遂行に活用していくことに意義がある。共通理解を図りながら有効に活用してほしい。 ②時間外勤務については地域からも心配の声がある。開校の様々な業務に取り組む上では、ある程度の時間がかかると思うが、改善が必要である。 ③感染症予防に丁寧に取り組んでいる。今後も継続して取り組んでほしい。	①学校運営要項や各種マニュアルを作成し、職員の間で共通理解を図り、活用するとともに適宜改善を図る。 ②開校年の体制づくりや新型コロナウイルス対策の対応等様々な業務をかかえ、遅くまで勤務する教員が多かった。業務量の見直しや会議の精選、教職員一人ひとりの意識の醸成を図る必要がある。 ③できうる感染症予防対策を講じ、教職員や保護者と共通理解を図り進めることができた。引き続き継続するとともに、学習の保障の視点と社会情勢を合わせて適宜改善を図る必要がある。	①年度初めに研修等を行い、周知を図る。 分掌等を中心に年間をおして見直し改善を図る。 ②退勤時間を設定し、校内に周知し、一人ひとりが意識して取り組めるようにする。グループ内の業務内容の見直しやグループ間の業務内容の整理を行い業務の効率化を図る。 ③社会情勢等を踏まえながら学習の保障等を考慮した体制を適宜検討する。本校のガイドラインの改訂を図る。

